

# 「小さな親切」作文コンクール 入賞作品を紹介

平成18年度大分県「小さな親切」作文コンクールが開かれ、県内の小さな親切運動各支部からたくさんのお応募がありました。審査の結果、市内から、つぎの3名が入賞しました。入賞した作品を紹介します。(原文のまま)

## 大分県議会議長賞

### 「仲よくなれる、小さな親切」

武蔵小学校5年 末次玲佳



私の住んでいる地区には、老人の人数が子どもがいる家庭は三軒しかありません。

ですが、おじいさんが、おばあさん、おばあさんの二人暮らしが多いけど、二軒だけ一人暮らしのおばあちゃんが住んでいます。

そのうちの一人のおばあちゃんは、私の家のすぐとなりに住んでいます。そのおばあちゃんは、よく私を見かけると、「何しよんのかえ？」など「いい天気やなあ」など、学校や友達の方に遊びに行く時は、「どこ行くんかえ？」「いつてらっしゃい。がんばりヨ」などと、色々なことを、話しかけてくれます。うれしいし、「がんばりヨ」などのよう

な言葉をかけてくれると、とっても元気になれるし、「よしっ、がんばろう」という気持ちが変わってきます。

私の家は漁師なので、時々だけど、おばあちゃんに魚をあげると、笑顔で「ありがとう」と言ってくれます。ほかに、クリスマスには、クリスマスケーキをあげます。

おばあちゃんは、「いつも、いろいろすまんなあ」などと言ってくれて、お礼におかしをくれたりしてくれます。私は「ありがとう」といつて笑顔でおかしを受け取ります。

私は、おじいちゃんやおばあちゃんが大好きなので、私もいろいろな物をもらつてうれしいけど、おばあちゃんが喜んでくれることの方がとってもうれしいです。

もう一人のおばあちゃんの家は、私が学校へ行くところちゆうにあります。だから行く時は「いつてらっしゃい」帰っている時は「おかえり」と言ってくれるので、私はお礼をしたり「ただいま」と返事をしたりします。

もうそのおばあちゃんは九十三才です。私はす

ごいなあと思っています。それは、九十三才になっても畑仕事をがんばっているからです。私達は、「暑い」「だるい」なんて言っているのに、おばあちゃんは、暑さにもかまわず、休けいもとらずに、一〜二時間も作業します。

魚のお礼に、自分の作った野菜などをくれます。うれしいしおいしいです。

私は思います。そうやって色々な人と話したり、何かをしてあげたり、してもらうと、とてもうれしい気持ちになつて、とても、仲よくなれるということ。

私はおじいちゃんやおばあちゃんが大好きです。これからも、体を大切にしてください。そして、これからもよろしくお願いします。

## 大分県教育委員長賞

### 「小さな親切」

武蔵中学校二年 森 彩葉



私は、最近初めて知ったことがあります。それは親切される方の気持ちです。今までは親切をされる嫌な気持ちになる

人はいないと思っていました。でも、人それぞれで受け取り方が違うことを知りました。今年、梅雨の季節に私は、私の家の近くの坂を下りていた近所のおばあちゃんに「一緒に下りましょうか」と声をかけました。おばあちゃんは「い